

シタン本の研究者が集まり意見を交換し、他言語の研究者が討論に加わるという得がたい機会になり、予定時間をかなり超える白熱した討論となった。

2 プログラム

第1日 10月18日（金） 漢字文献と非漢字文献

13:00～13:10 趣旨説明

濱下 武志（東洋文庫研究部長）

13:10～15:10 コディコロジー——漢字文献と非漢字文献——（書庫見学を含む）

石塚 晴通（東洋文庫研究員・北海道大学名誉教授）

15:30～17:00 キリシタン文献Ⅰ——キリシタン版の印刷技法——

白井 純（信州大学准教授）

第2日 10月19日（土） 非漢字文献

10:00～11:50 キリシタン文献Ⅱ——紙と活字から見たキリシタン版——

豊島 正之（上智大学教授）

13:00～14:30 中央アジアの非漢字文献——ウイグル文献とモンゴル文献——

松井 太（東洋文庫研究員・弘前大学教授）

14:40～16:10 中央アジアの非漢字文献——チベット文献——

岩尾 一史（神戸市外国語大学客員研究員）

16:30～17:30 総合討論

司会：石塚 晴通

3 講演内容

コディコロジー——漢字文献と非漢字文献——

石塚 晴通

（東洋文庫研究員・北海道大学名誉教授）

中国の漢字文献における異体字の特徴と地域性を考察することにより、漢字文化圏の広がりや発展をみていく。また、紙の材料の科学的分析によるコディコロジー（文理融合型書誌学）的考察から東洋の書誌の材料について分析する。

1. 漢字の書体・字体・字形の定義

書体……漢字の形において存在する社会共通の様式、楷書・草書等

漢字資料の目的

字体……書体内において存在する一々の漢字の社会共通の基準

字形……書体内において認識する一々の漢字の書写（印字）された形そのもの

異体（字）率 = 異体の総字数 / (文献の総字数 - 孤例の総字数) × 100

HNG 所収原資料（東洋文庫蔵本）

漢字の草体化・省画化・増画化→各言語特有文字

2. 書誌

絹本・木簡・竹簡 卷子本, 紙本・墨書

書誌学的常識と科学的分析：黄麻紙, 麻紙, 楮紙

3. 現史料

東洋文庫書庫見学

使用資料：

『梵語千字文』

キリシタン文献Ⅰ——キリシタン版の印刷技法——

白井 純

(信州大学准教授)

キリシタン版と金属活字印刷について基本的知識を理解し、『ひですの経』と『こんてむつすむんち』を例に、キリシタン版国字本活字印影データベースから新たに判明した量産型金属活字ではない資料と、日本語の規範に反する特徴をみていく。

1. はじめに：キリシタン版

- ・16世紀末～17世紀初（約20年間）に日本で出版されたキリスト教イエズス会の出版物
- ・キリシタン関係の文献：活字, 印刷, 版式, 言語
- ・西洋のプレス式印刷技法：ローマ字・日本語文字（漢字・仮名）のパンチ式金属活字を使用
- ・日本語史研究における重要性：異言語の接触

2. 本日の話題（問題点）

- ・キリシタン版国字本活字印影データベース：キリシタン版の版式を知る唯一の方法
- ・量産型金属活字：父型（Punch）と母型（Matrix）
- ・『ひですの経』の活字印影と原田版『こんてむつすむんち』の版式

3. 金属活字印刷とキリシタン版

- 1) 金属活字印刷の歴史：アジアの活字印刷, キリシタン版の印刷機, 日本の活字印刷
- 2) インクナブラ（活字揺籃期）の時代
- 3) 金属活字印刷の技法と課題
 - ・パンチ式金属活字の製法とプレス式印刷機の利用
 - ・文字の使用と日本語活字への対応
- 4) キリシタン版国字本の発展：活字の種類による3期分類
 - ①極初期片仮名本：稚拙な試用版
 - ②前期国字本：イエズス会版, ヨーロッパ製, 変体仮名の固定化→仮名文の可読性
 - ③後期活字本：連綿活字の利用, 常用的漢字と金属活字